

作文の自己評価、共同批評について

— 中学校での実践例 —

高 下 正 毅

○はじめに

三原市内の中学生作文調査（昭和50年7月）によると、先生や友人の批評を次の作文で生かしたという人は中学三年生では38%しかない。一年生、二年生でも50%くらいしか批評を役立てていない。作文を提出し、だいぶ日数がかかって返してもらった。感動の薄れたところ評言を読むことになるし、次にそれを生かそうにも、作文の機会はなかなか来ない。

書く時になると、作文の内容によっては前の評言が生かしくいということもある。そこで、作文を書いたら、自分の反省、友人の批評をとり入れて、すぐ、その作文を直すという実践を試してみた。

○昭和五十年度の実践

一、学習指導の実践

- 1、単元 「友情を求めて」— 中学三年生（三省堂教科書）
- 2、指導目標
 - イ、友人、友情について深く考えてみたい切実な題材を選び、主題をはっきりさせる。

ロ、効果的な構想をたて、段落意識をもって形式段落をつくる。

3、指導計画

- イ、「友情と孤独」を読み、友情について考え、自分たちのつき合いを反省する。
- ロ、「わたしの発見したもので、表現・構成について学ぶ。
- ハ、「友情を育てよう」を読み、自分の生活における具体的な事実の中から心に強く響いたことをとり出し、構想を練り、作文を書く。

4、時間配分

- イ、友情と孤独 二時限
 - ロ、私の発見したもの 二時限
 - ハ、友情を育てよう 二時限
 - ニ、自己評価、共同批評（1） 一時限
 - ホ、自己評価、共同批評（2） 一時限
 - ヘ、遅れる人の予備日とアンケート 一時限
- 5、自己評価、相互評価（批評）の方法

まず、自分で自分の作文を10段階に評価する。そして、自分の反省で、苦勞したこと、うまく書けたところ、不十分などことを説明する。

次に、グループの友人に評価用紙と作文を渡し、評点と感想を書いてもらう。各自書いてきた作文を次々まわしてゆく。グループの全員がすんだら、残った時間で書いてもらったことについて質問したり説明してもらったりする。グループは3人〜4人にし、席の近い人で構成した。

6. 評価用紙

作者の評価 題 () 作文 ()
 各項目を10段階で評価し、合計して下さい。他の人の書いた評点にまどわされぬよう気をつけて書きましよう。

評 価 項 目	1 回目		2 回目		1 回目		2 回目		作者(A)の反省	作者(A)の反省
	評	価	回	目	回	目	回	目		
1. 題名のつけ方はいいですか。										
2. 作者の言いたことがはっきり書かれていますか。										
3. 関心のもてる主題を設定していませんか。										
4. 段落を意識し、はっきり切っていますか。										
5. 段落の組み立ては適切ですか。										
6. 表現の効果を考え、語句の使い方を工夫していませんか。										
7. 書かれている情景、心情がよく想像できますか。										
8. 深く感動したり、考えさせられたりしましたか。										
9. 漢字・仮名づかい・句読点・カッコなど正しく使っていますか。										
10. 文字はていねいですか。										
合計点										
評価者名	氏 名 (A)		氏 名 (B)		氏 名 (C)		Cの感想		Cの感想	

七、自己評価・共同批評についてのアンケート

(四クラス 142名の集計数字は%)

A. 自己評価について

今までに作文の自己評価をしたことがありませんか。

自己評価してみることは有効だと思いますか。どういう点でそう言えますか。(文章で書く。)

B. 相互批評について

a 相互批評 (共同批評) して

共同で作文を読み直していくことは楽しかったです。漢字、仮名づかい、記号などは気をつけるようになった。

作文で何に気をつけねばならぬかがわかった。友人に助言できて親密さを増すのにプラスになった。

他人の作文を読むのは悪いような気がした。

批評評点で作者に遠慮して思うように書けなかった。

b 相互批評 (共同批評) されて

改めなくてはならないところ、良いところがわかった。

いろんな考えの人の意見がきけて役に立った。友人の評点、批評が納得できなかった。

あとでグループの話し合いをもってよかった。

71	19	78	78	23	13	45	59	72	63	58	71	46	はい
27	21	21	18	28	25	43	32	23	27	29	23	0	いえ
2	60	1	4	49	62	12	9	5	10	13	6	54	いえ

どういう点でそう言えますか。(文章で書く) 友人に作文を読まれて不愉快でしたか。人に読まれることを意識し、作文の内容が変わりましたか。

今まで相互批評 (共同批評) したことがありませんか。

相互批評 (共同批評) は役立つと思いますか。今後も相互批評してゆきたいですか。

作文の反省として、どうすることが良いと思いますか。(文章で書く)

作文は好きですか。

どうしてですか。(文章で書く)

自己評価、共同批評で改めたいところがありますか。(文章で書く)

八、アンケート結果と考察

友情、友人について書いた作文を共同批評することに抵抗を感じていたが、やって良かったという人が70%を越えていたので安心した。人に読まれることを意識したので内容が変わった人が17%いたこと、今後も共同批評してゆきたいですかという問いに「はい」と答えた人が同じく17%いたことは反省しなくてはならない。

自己評価したことのある人は46%あり71%の人が有効であったと書いている。

その理由として、

○自分で自分を評価してみることは、自分で自分を発展させることになる。

14	55	78	32	17	9
39	28	19	2	21	25
46	17	3	66	62	66

○自分がどの程度書けたかはつきりする。

○自分のよくする間違いや欠点がわかる。

○評価することによって自分の気持ちをはつきりする。

○作品を一層よくしていくことができるし、つぎの作品を書く参考になる。

○何度も読んで評価するうちに自然と推敲することにもなる。

○自分で自分の作文の悪いところがよくわかる。

などをあげている。6%にあたる人は自己評価にふさわしくないと考えている。

その理由は、

○自分が一生懸命書いていればいい。

○自分ではよくわからない。

をあげている。相互批評については、役立った、やって良かったという人が70%前後ある。共同批評したことのある人が32%、ない人が66%で、自己評価より相当なじみが薄い。グループで話し合い、修正し合ってたと思う理由として、

○授業が楽しかったし、人から見て自分の考えはどんなものかわかったので、お互に自分の弱点がわかるし、一人一人が高められる。

○一人で評価するより多くいたほうが自分のために良いし、他人の意見がすなおに聞ける。

○グループが団結し、親愛感が生まれる。

○「なんともいえない」「良くなかった」と思う理由として、

○人の考えがきけるからよいけれど、みんなの考えがまちまちだから迷ってしまう。

○自分の作文の欠点を知るとは良いけれど、少々恥ずかしい。

○あまりプラスになるようなことはなかったし、自分の作文の内容をあまり理解してくれていない。

○なれあいになって厳しく批評できなかった。

がある。「良くなかった」は2%だが、「なんともいえない」が27%、約30%が積極的には支持していない。相互批評後の教師の指導があるし、こういう作業が初めてだから恥ずかしいし、修正する側も慣れだということが考えられる。

友情、友人について書く作文だったが相互批評は役立つというのが78%、役立たないが3%であった。「今後も相互批評してゆきたいですか」では、「はい」が55%、「いいえ」が17%と差がちぢまっている。相互批評の仕方についても生徒の希望をとり入れ、改善してゆきたい。相互批評で改めたいところとして生徒が書いているのは

○もっと多くの人数でやったら、いろいろな意見がでておもしろいと思う。

○仲のいい人、読んでほしい人とグループをつくりたい。

○どうしても前の人のつけた点に左右されるので、点がわからないようにすればよい。

○男女同じ人数のグループにしてほしい。

○班(7人)の中でやったほうがよい。

○その作文に対しての作者の意気込みについても評価すればよい。

○もっと感想や忠告をたくさん書けるようにしてほしい。

○点はつけなくてもよい。評価を作文のように書きたい。
○もっときびしくつけてほしい。

である。次回からは男子2人、女子2人の4人グループを席の近い人でつくり、評価項目を整理してやってゆきたい。評点も10段階でなく、5段階か3段階でいいと思う。大きな紙をまわすのでなく、小さく切った紙に各人が評価して集め、他の人の評点に影響されぬよう考えたい。

自己評価が有効と思う人71%が、今後もしたい人という58%に、相互(共同)批評が役立つといった78%が、今後もしたいですかという55%にそれぞれ減少していることについて生徒と話し合ってみた。良いとわかっていてもめんどうなのだ、作文が好きでない人は自己評価、相互批評に賛成でないと書いた人が多いだろうという意見がでた。

作文が嫌いな理由として、

○めんどうくさい、しんどい、疲れる。

○書くのが嫌い、苦勞する。

○どんなことを書いていいかわからない。

○自分の言いたいことが的確に書けないし、意見もまとまらない。
い。

○構想を練るのがむずかしい。

○字がへただ。

がある。書く機会を多くし、困難点が打破できるよう指導してゆきたい。「書くことが楽しい」とならないまでも、自分の思っていることが気軽に、誤りなく伝えられるようになったらと思う。

共同(相互)批評はグループの親密感を増すし、推敲する力を育てるし、友人に自分の気づかなかつた良い点、悪い点を教えてもらえる長所がある。一時間の授業で処理できる範囲で今後いろいろ改善し、定着させてゆきたい。

○昭和五十一年度の実践

一、学習指導の実践

1、単元「働く人々」—中学一年生(三省堂教科書)

2、指導目標

1、働く人々の姿を真剣に見つめたり、また、自分自身の働いた体験を思い起こしたりしながら作文を書いて、働く人々の真実の姿を感じとる。

2、会話を生かし、情景がよくわかるよう描写し、言おうとすることを読み手に印象づける。

3、自己評価、共同批評により推敲する力をつける。

3、指導計画

1、「母の顔」「働く姿を見つめよう」を読み、自分の体験、見聞を思いおこす。

2、「題」「主題文」「構成」を考えてメモする。

3、作文を書き、自己評価、共同批評する。

4、時間配分

1、単元のねらいを話す。夏休み等最近働いた体験を言わせる。
2、「母の顔」の読み。一時限

3、「働く姿を見つめよう」の読み。作文を書く要領の説明。一時限

4、「題」「主題文」「組み立て」を考えてメモし、作文を書き。一時限

く。(完成できないところは家庭にもって帰って書く。)

一時限

ニ、作文の自己評価、共同修正をする。

4組―すぐKさんの作文をプリントしたのを読み、評価用紙に記入する。

紙に記入する。

6組―3の作品を読み、評価用紙に記入し、発表し合う。

一時限

ホ、6組―2人の作品を読み、評価用紙に記入し、なぜそう評価したか話しあう。その後でKさんの作文を読み、評価用紙に記入する。

一時限

ヘ、6組―各班の中で作文をまわし、評価用紙に記入し、作文の主に返す。(評価用紙をもとに各自、自分の作文について反省し、作文を書き直す。そして、評価用紙と共に提出する。)

5、意図

イ、4組ではKさんの作文をすぐ評価用紙に記入し、6組では5人の作文を評価したり、話し合ったりして、ある程度の共通意識をつくってKさんの作文を読み、評価用紙に記入した。4組と6組では評点のばらつきがどう違うか調べたい。

ロ、評価用紙を個人別にし、別紙のような5項目を5段階評価して、成績下位の者が、共同修正の際に困難をきたすことがあるかどうか調べたい。

6、評価用紙

作文の題 ()

作者 ()	評価者 ()	5段階評点	感じたこと
a 題のつけ方はいいですか。	()	()	()
b 言おうとすることがよくわかりますか。	()	()	()
c 題材を並べる順序はいいですか。	()	()	()
d 会話をじゅうぶん生かしていますか。	()	()	()
e 文字はていねいに書いていますか。	()	()	()
総合	()	()	()

改めたこと、

イ、評価用紙が共通では、人の評点の影響を受け易いので個人別にした。

ロ、評価項目を整理した。

ハ、10段階評価では細かすぎるので、5段階の評価にした。

ニ、文章を書くスペースを多くした。

7、結果

イ、ある程度評価基準を話し合った6組は、Kさんの作文に対し、30点満点で18点〜24点の7点の域に分布し、4組は14点23点の10点の域に分布している。項目別に見ても4組ではbやeで2点〜5点のバラツキがある。共同評価する場合に

は、いくつかの作品を評価の基準作文として読み、話し合いをして、共通意識をつくっておくと思う。

6組の評点の平均が4組の評点平均より高かったのは、前に読んだ5人の作品が、内容、分量ともKさんのより劣っていたということと、評価者氏名を記入したので、同じクラスのKさんに遠慮したということもあったかもしれない。そういう遠慮が作用するとすれば、作文の氏名はなしにしたほうがよい。

ロ、6組で欠席者を除き、国語の成績順に並べた上位から10人ずつの平均点を出してみたら、次のようであった。

1番～12番 20、8点

13番～23番 20、3点

24番～33番 21、7点

34番～42番 21、2点

成績の上位、下位の二つに分類すると、下位の人の点が多少甘い。問題にしている四段階の下位だけが、かけ離れた点をつけているとはいえない。個人別に見ても、共同修正の作業で困る評点をつけた者はいない。

4組は欠席者がいないので、11人ずつ上位から評点の平均を出していた。

1番～11番 17、5点

12番～22番 19、2点

23番～33番 17、5点

34番～42番 19、6点

この組でも下位だけがかけ離れた点をつけているとはいえない。

ない。「感じたこと」の記入をみても、成績下位の者が共同修正の作業で困るのではないかという心配はないと思う。

8、反省

イ、「感じたこと」を書くのに時間がかかり、一時間で六人まわせなかった。

ロ、評価基準の話し合いをするとき、クラスの上、中、下三點か、中くらい作品一点を選んで読み、氏名を発表しないのがよいと思う。

ハ、評価用紙の評価者氏名も、評価者が無責任なことをしないなら、無記名のほうが率直に書ける。

昭和五十二年度の実践

一、形成的共同評価の試み

今まで、作文を書きあげたのちに自己評価、共同評価し、それを参考にして書き改めていた。しかし、表現、表記ならともかく、取材、構想の段階で指摘されていることをいれて改めるとなると、大変な作業になる。作文を書きあげる途中で、友人の助言、自分の反省を書いて参考にすれば、不足したところも容易に改められるし、自信をもって書くこともできるのではなからうか。

このたびは、三回に分けて実践した。まず、主題、材料の段階で一回、次に構想と題目で、最後に表現と考え方で三回目の評価をした。三回目は、できあがった作文を読んで自己評価、共同評価をし、作者への手紙という欄に文章で記入した。そのあと作文や評価表をもとに、班の中での話し合いの時間を少しもった。

二、学習指導の実際

1、単元「意見、主張を書く」——中学三年生（三省堂教科書）

2、指導目標

イ、自分たちの生活、身のまわりの社会の中から、言いたいことを見つけさせる。

ロ、主題に関連した材料をなるべく多く集め、論理的な構想をたてさせる。

ハ、作文の過程で、自己評価、相互評価の結果を参考に修正する態度を養う。

ニ、落ちついて自分の意見を発表し、友人の意見を聞きとる態度を養う。

3、指導計画

イ、意見文を書くから主題を決め、材料をたくさん集めておくように予告。（一か月前）

ロ、「報道の中から」（生徒作品）を読み、問題をどうとり上げ、どのように考え、どのような提言をしているか調べる。

ハ、「意見、主張を書いて、行動の基盤を作る」を読み、意見文の書き方を学習する。

ニ、「立場を明確にする——論理的な構想——」を読み、参考にする。

ホ、自分のテーマについて、自己評価、共同評価しながら作文を書いてゆく。

4、時間配分

イ、「報道の中から」（生徒作品）

一時限

ロ、「意見、主張を書いて、行動の基盤を作る」「立場を明確

にする——論理的な構想——」

ハ、「主題、材料」「構想、題」の自己評価、共同評価。

一時限

ニ、作文を書いてくる。

一時限

ホ、表現、考え方の評価、作者への手紙。

一時限

5、生徒の実践例（西洋紙一枚のプリント）

意見文を書いて発表しよう

主題（一回目）

（二回目）

読書をもっと身近なものにし、学習余暇の活用などふだんの生活に生かしていこう。

すばらしい「読書」の力でふだんの生活をより向上させていこう。

材料

ぼくの体験

○生かされた理科の本
（熱と温度）

○生かされた大きな視野
（車輪の下）

ぼくの体験

○生かされた科学関係の本
（熱と温度）

○生かされた大きな視野
（車輪の下）

勉強最優先説

構想

問題提示

○今ぼくたちは読書を生かしているか。
○もっと生かしていけるのでは

事実

○ぼくの体験
※自分の意見と切りはなす。

二、あなたは作文が好きですか。

三、ア「はい」と答えた理由

(1年)

- 書くことによって自分の考えをはっきりさせられる。
- 思いを残していける。
- 思っていることを口よりうまく人に伝えられる。
- うまく書けると楽しい。
- 書いた後ですっとするから。
- 書いていると思いが浮かんでくる。
- 書いていると自分の気持が素直になれる。
- ことばのきまり(「」など)を使って書くことは楽しい。
- 小さい時から日記を書いていた。
- どんなことでも自由に書ける。
- どんな作文を書いても間違っていない。

イ「いいえ」と答えた理由

(1年)

- 構成がむずかしい。
- 文章がまとまらない。
- 書くことが思いつかない。
- 書くのが苦手。
- 気持ちをうまく表現できない。

女子		男子	
ウ、イ、ア、	ウ、イ、ア、	ウ、イ、ア、	ウ、イ、ア、
ど、い、は、	ど、い、は、	ど、い、は、	ど、い、は、
ち、ら、え、	ち、ら、え、	ち、ら、え、	ち、ら、え、
でも、ない	でも、ない	でも、ない	でも、ない
四二二	四三二	四三二	四三二
〇九二	三三三	三三三	三三三
四二一	五六〇	五六〇	五六〇
九七六	四三二	四三二	四三二
六二一	四三二	四三二	四三二
五一一	四七九	四七九	四七九

(2年)

- あと読みかえして楽しい。
- 話す時よりじっくり考えられる。
- 書くことが楽しい。好きだ。
- 後の反省材料になる。
- みんなの考えを読むのはおもしろい。
- 誰かに読んでもらって批評してもらえる。
- 自分の思っていることを遠慮なしに書ける。
- 書き出しがむずかしいが、それをすぎるとすらすら書ける。

(2年)

- 自分の思うことがパツと書けない。
- 書こうとすることをうまくまとめることができない。
- 文章の構成ができない。
- 書けと言われて書くのはむずかしい。

(3年)

- 作文することによって自分の考えをしっかりとつかむことができ、意志の表現がはっきりできるようになるので。
- 自分を高められる。
- 自分の感情を文章にする一種の楽しさがある。
- 思い出しながら書いたりするのが楽しい。
- 構想を練るのが好き。
- だれにも邪魔されずに自分の思うことを、考へることが書ける。
- 自分の考えを伝えるとき、よく考えられるし、確実に伝わる。

(3年)

- あまり書こうというものが無い。
- うまく思うように書けない。
- めんどくさいし、どうしていいかわからない。
- 文法がわからないのでまちがいが多い。

- 字がへただ。
- 人に見られるのがイヤだ。
- 考えるのがややこしくて嫌いだ。
- ながい間作文を書かないでいると書き方がわからなくなる。
- 漢字を書くのがしんどい。

四、作文に関するよい思い出、悪い思い出があったら、そのどちらか一つ、いちばん心に残っているものを書いて下さい。

良い思い出とはどのようなものですか。

(1年)

- 先生や親にほめられた。
- 文集などによって活字となった。
- 授業中発表してもらった。
- 発表したらみんながおもしろいと言った。
- 他校の先生が来て批評してくださり、勉強になった。
- 作文がみんなに認められた。
- 作品展に出した。
- 作文研究会で発表した。
- 作文を書いて互いに読み合ったら、みんなの気持がわかった。
- 先生が家庭のことで相談のつてくれた。
- 読書発表会で発表した。
- 近所の人に「いい作文だね」と言われた。
- 作文発表を全員した。
- ひとつひとつ思い出しながら書いた。
- 自分で満足できる文章を書いた。
- 「」の使い方を習い、はじめて使ったとき、先生にほめられた。

- 字がきたない。
- 書くのがめんどうだ。
- 主題がはっきり表わせない。
- 推敲がうまくできない。

良い思い出がある

男	子	三	八	三	六	三	六
女	子	五	六	四	四	五	六
小学校で		四	六	三	二	三	四
中学校で		二	一	八	二	九	

(2年)

- よい評価がついていた。
- 学級新聞にのった。
- 県で入選した。
- 校内放送した。
- みんなの前で読んだ。
- 新聞社に送ってもらった。
- 母にほめられた。
- 母に批評してもらいながら何度も書き直した。
- 何回も書きなおして最後にほめられた。
- 自分としてよくなったと思った。
- 人と違うなにかがあると言われた。

- 他人にわかってもらうのは渾身の努力がいるのでたいがい。
- 先生の作文の扱いが気に入らない。
- 枚数がきまっているとそれにこだわる。
- 字がきたない。
- どんなことばで書いてよいかわからない。

(3年)

- 文集を作った。
- 賞状、賞品をもらった。
- 新聞に載った。
- 自分の感じてよく出ているとほめられた。
- 文章を通じてよい友だちができた。
- みんなの前で読まれ、友人にほめられた。
- みんなで考えたり笑ったりした。
- じょうずだとほめられ、五重丸をもらった。
- ことばによる批評感想が書かれていた。
- 母の日に作文をおくったら喜んでもらった。
- クラスの文集によりみんなの考えがよくわかり、仲間づくりに役立った。
- 放送で発表したことがある。
- あとから読みかえすと、考え方などの移り変わりがわかりおもしろい。
- 人のを読んで非常におもしろかった。

6、今までの処理

ア、上・中・下 (A B C …)	二 三 一 七 一 九
イ、10・20などの点数	七 二 三
ウ、ことばでの批評・感想	七 五 八 二 六 七
エ、検印だけ	二 七 三 一 五 〇
オ、その他 (先生が読むだけ、誤字など直す、合格、不合格)	三 二 四

7、希望する方法

ア、上・中・下 (A B C …)	九
イ、10・20などの点数	五
ウ、ことばでの批評・感想	六 八 五 〇 七 六
エ、検印だけ	一 四
オ、その他 (点数と理由、何もしないで返す)	〇 四 九

8、今まで先生や友人の評価、批評を次の作文に生かしましたか。

ア、生かした	五 三 四 六 三 八
イ、生かさなかった	二 七 四 三 六 二

ア、どのように生かしましたか。

- 漢字を辞書でひいて書く。
- 段落に分けた。
- 組み立てを工夫した。
- 文を短くした。
- 言葉の使い方、つなぎ方を考えた。
- 句読点、カッコの使い方注意到。
- すなおに表現するよう努めた。
- 推敲した。

イ、なぜ生かさなかったのですか。

- めんどうだ。
- 忘れていた。
- むずかしかった。
- 必要と思わなかった。
- 生かさそうと思ったが生かせなかった。

- 構成を考えた。
- 結びを工夫した。
- 自信をもって書くようになった。
- 文法のまちがいを直す。
- 文末を改めた。
- ことばの使い方気をつけた。
- 読み手の気持ちを想像して書いた。

- めんどうくさい。
- すぐ忘れた。
- 興味がない。
- 作文をあまり書かない。
- 必要でない。

- 内容を具体的にした。
- 何が言いたいのかを最後に書いた。
- 客観的に書くことを覚えた。
- 3枚程度書くようになった。
- 一番感動したところを書くようになった。
- 句読点を統一した。
- 文体を工夫した。
- 結びを工夫した。

- 生かし方がわからない。
- くせになつてゐるから。
- 自分は満足しているから。
- もたらさず机の引き出しに入れた。
- 意味がよく判らなかつた。

- 具体的に教えてくれない。
- 友人の言ったように私は思わなかった。
- 批評されていない。
- 気にしない。
- どうして良いかわからない。

- 自分のやり方でやりたい。
- 読んだだけだった。
- よい批評がなかった。

- 別に作文というものを深く考えていなかった。
- やる気がない。
- 言われてもうまくいかない。
- 参考になるような批評がない。
- 別の作文を書くとき、前の作文の批評を忘れていた。

9、希望する作文の処理

ア、先生が読むだけ	一七二六三三二
イ、グループで批評、先生も読む	五六五二四八
ウ、クラスで発表	一四一八二二
エ、その他	一
ア、すぐ本人へ返す	一七二九三五
イ、掲示する	一五六九
ウ、文集をつくる	四九六三五一
エ、その他	七〇一

(三原市立第二中学校)